

第5回 物部川水系流域治水協議会

議事概要

日時：令和3年3月23日(火) 10:00～11:00

場所：高知県立県民文化ホール 事務棟4階 第6多目的室

1. 出席者

- ・高知市長 岡崎 誠也（代理出席：都市建設部長 岡崎 晃）
- ・南国市長 平山 耕三
- ・香南市長 清藤 真司
- ・香美市長 法光院 晶一
- ・高知県危機管理部長 堀田 幸雄（代理出席：危機管理部副部長 竹崎 幸博）
- ・高知県農業振興部長 西岡 幸生（代理出席：農業振興部副部長 杉村 充孝）
- ・高知県林業振興・環境部長 川村 竜哉
（代理出席：林業振興・環境部副部長 小原忠）
- ・高知県土木部長 村田 重雄
- ・中国四国農政局高知南国農地整備事業所長 児島 学
- ・四国森林管理局高知中部森林管理署長 吉良 崇夫
- ・森林整備センター高知水源林整備事務所長 木立 英一
- ・高知地方気象台長 佐伯 亮介
- ・四国地方整備局高知河川国道事務所長 多田 直人

2. 議事

(1) 規約の改定について

事務局より、規約の改定について説明し、合意を得た。

○（香南市）

個別に部会を設置とあるが、具体的にどのようなものを想定しているのか。

○（事務局）

具体的には決まっていないが、今後協議会で議論していく中で、例えば「避難対策」などの分野毎、あるいは地域毎での検討が必要となった場合に、個別の部会で議論できるようにご提案した。

(2) 物部川水系における流域治水の推進方針（案）について

事務局より、「物部川水系における流域治水の推進方針（案）」について説明し、合意を得た。

○（南国市）

南国市として、「備えて住む」という新しい視点取り入れていただき、非常にありがたく思っている。今後はこれをどのように実現していくのか、どうやって地域に浸透させていくかが課題となる。

また、1000年に1回の洪水に備えて、どのように逃げるのかということに主眼を置いて避難対策を考えていかなければならない。すべて人が一度に逃げるのは困難であるため、垂直避難で安全を確保できるのであれば、その方向で整備が進むよう取り組みを進めていきたい。避難対策の環境整備については、今後ともご相談させていただきたい。

今後は右岸 9k よりも南側が破堤した場合の浸水や避難についても、ぜひ分析していただきたい。様々なパターンを考えて対策をとっていききたいと考えている。

○（高知市）

これまで物部川流域治水協議会に参加して、国や県、関係機関と流域4市が現状の課題や意見、取組など幅広く情報共有できたことが非常に有意義なものであった。今後それぞれの取り組みを具現化し実効性のあるものにしていくことが重要であると考えている。

現在、高知市が進めている立地適正化計画の見直しについても、都市計画審議会において高知河川国道事務所よりいただいたご意見を参考に、家屋倒壊等氾濫想定区域を居住誘導区域から除外する方向で整理を進めており、これも「流域治水」を推進する3つの柱である「備えて住む」という取り組みに沿うかたちとなっており、有効な対策になると考えている。

また、来年度からは県内の2級河川のうち、5つの水系について流域治水プロジェクトに取り組むこととなっており、高知市としても鏡川、国分川の2水系でこの取り組みに参加することとしている。特に国分川は物部川と氾濫域が重なっており、この2水系についてはひとたび氾濫が発生すると高知市の中心部にも甚大な被害が発生するというおそれがあることから、治水上、非常に重要な河川と認識している。

今後とも多方面からのお力添え、ご助言をいただけますようお願いするものである。

○（香南市）

今回の推進方針は、洪水に対しての対応と今後の計画が非常にわかりやすいものとなっている。

右岸の南国市での課題への対策などが考えられており、香南市にとっても身近に感じている。今後これをもとに様々な施策を展開しやすくなったと非常に感謝している。

また、物部川流域では多種多様な団体が活動しているため、すべての団体が明確な目標を持って、意思統一をしていくことも非常に大切である。高知河川国道事務所、県、4市で連携をとっていけたらと考えている。

○（香美市）

この「流域治水」では、2040年の犠牲者ゼロを目指して全員参加と謳っている。「備えて住む」「安全に逃げる」ということに皆さんに参加し理解していただくため、この「流域治水」の取り組みを広げないといけない。そこに住む危険な状況にある人たちに知っていただき、参加していただく機会をつくるためには、自治体で連携しているいろいろな形のイベントなどに粘り強く取り組む必要がある。

東日本大震災から10年経ったが、あのような地震・津波が来るとは誰も思っていなかったため、身近に迫っている危機を前にして逃げ遅れる人たちがたくさんいた。少しでもその状況が把握できていれば、あるいは知識があればあんなことにはならなかっただろうと思う。そういった点でも、全員参加ということに力を入れて取り組んでいきたい。

氾濫を減らすために、河川の堤防を強化していくということも大事なことだが、今あるものを活かす、機能を取り戻すことも大事である。ダムの上水対策も大事だが洪水調節能力を上げることも大事であり、事前放流についても考えていかないといけない。

○（高知地方気象台）

「流域治水」に取り組んでいく中で、情報共有を確実に実施していくということも非常に大切であると考えている。例えば協議会において独自のネットワークを構築し、いざというときに危機感を共有することができればいいのではないかと考える。

以上